



写真3：8月のナニワズ



写真2：春を告げるナニワズの花



写真1：雪解け直後のナニワズ（＝ナツボウズ）葉がしっかり付いている。

開き始めた若葉

花（黄色）



歴史のドアを開けよう

Natural History
第54回

いしかり博物誌

■文化財・博物館開設準備室 ☎72-6123

bunkazai@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎66-6107

ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

実（赤色）

防風林に春告げる

「ナツボウズ」

ナツボウズと聞いて、どのような植物を想像しますか？

「夏坊主」イコール「夏に葉がない」を意味するこの名前の持ち主は、黄色い花を咲かせて防風林に春を告げる植物。「ナニワズ」の別名で知る人のほうが多いのかもしれない。

早春、雪が消えまだ草の芽吹きもまばらな林の地面に、緑の葉を茂らせた植物が見つかります。星のような小さな花が集まって咲いている株もあるでしょう（写真2）。

さて、このナニワズの春一番の青々とした葉は、いつ開いたのでしょうか。

季節を昨年の八月に戻してみよう。写真3で指している実は赤色で、春に咲いていた花

が結実したもの。その上に、開き始めた若葉を見ることができ

ます。そうです、春一番に茂っている葉（写真1）は、昨年の八月に開いた葉なのです。それで、秋、雪降る前の防風林でも、葉を茂らせ、翌春開くつぼみを付けたナニワズを見ることができ

るのです。春、ナニワズは、花の時期と重ね、越冬していた葉に加えて新たな葉も開きます。これで、林の地面まで差し込む光を存分に吸収するのです。

そして六月、上層の木が葉を広げ、林が新緑の季節を迎えるころ。薄暗くなった林内で、葉が黄色くなっているナニワズを見つけてみましょう。夏に向けて、すべての葉を落

としていくのです。

そうです、これが「ナツボウズ（夏坊主）」の名のゆえんなのです。七月には、地面から伸びる枝と、それに付く未熟な緑の実だけが残り、その株を見つけてるのはかなり難しいでしょう。そしてまた、立秋を過ぎたころ、秋に向けて再び新葉を広げ始めるのです。

上層の木の葉と、葉を付ける時期を逆にすることで、夏の薄暗い林内では休眠し、春と秋の明るい林内で光を存分に得ます。落葉広葉樹林の地表で生活するための作戦を、「ナツボウズ」から読み取ることができま

すね。

（石狩浜海浜植物保護センター
内藤華子）